



# 豊野小・中学校だより 第9号(令和6年9月3日)



豊野小・中学校  
ホームページ

～「共感する力」、「伝えあう力」、「実行力」～ 小学校 153人 中学校 86人 計239人 文責 鬼塚

## 前期後半スタート

夏休みが終わりました。夏休み中に子どもたちは大きな事故やけがもなく、命を守る安全な行動をしてくれたようで嬉しく思います。前期後半も職員一丸となり、「チーム豊野」で子どもたちのためにがんばります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

## サッカーボールの寄贈

9月2日(月)に元豊野町教育長の山本孝明様から、サッカーボール9個を寄贈していただきました。今年度、教育功労者として瑞宝双光章を受章され、その記念に



豊野小・中学校へ何かしたいとの思いから、今回の寄贈に至ったそうです。大切に使用させていただきます。



山本 孝明 様

## 宇城市『少年の主張』大会

6月29日(土)の「宇城市『少年の主張』大会」で、中学3年生の中村叶哉さんが学校代表として参加しました。その作文を紹介します。

### 「差別する心」

### 宇城市立豊野中学校 三年 中村 叶哉

僕は、中学二年生のときの人権学習で、ハンセン病について勉強しました。そこでハンセン病に対して起きた差別を学んだときに、最初に「なぜ」と思いました。

ハンセン病は遺伝しないのに、他の人には遺伝すると思われたままでした。そのせいで、子どもを産むことができなったり、1人がハンセン病に感染したら、その家族もいじめを受けていたりしたことを知りました。学習していくうちに、ハンセン病のことをよく知らない人が差別をしていることが多かったのだとわかりました。

ハンセン病になった人は、家族に会えず、療養所にいないといけないうことだけでも、すごく心が苦しかったと思います。それなのに、何も知らない人から厳しい差別を受けて、もっと苦しい生活を送らなければならなかったことはひどいことだと思いました。しかし、そんな中でもみんなで話し合い、協力して行動を起こし、裁判に勝利したことは、すごいと思いました。

このような差別が二度と起きないように、まず、僕自身が正しいことを知ることから始めようと思います。そして、少しでもハンセン病について深く考えていきたいです。

このハンセン病の学習から、自分のこれまでの生活を振り返ってみました。僕は、相手のことが気に入らなったり、何か嫌なことをされたりしたら、つい相手のことを差別する心が出てしまうことがあると思います。例えば、相手のことが許せなかったり、相手と話したくない、関わりたくないと思ったりします。この気持ちこそ、差別する心だと思うのです。差別はいけないことだと分かっているはずなのに、自分の中に差別する心が出てきてしまっていました。

でもそれは、先ほどのハンセン病の人を差別してしまう人たちと同じではないかと思いました。相手の本当の気持ちや正しいことを知らないから、相手を嫌ったり、関わりたくないと思ったりするのです。

僕は小学生のとき、あまり話したことがなく苦手だと思っていた人がいました。野球のチームが同じで、話してみると共通点があり、自分と話が合うことがわかりました。そのことがきっかけで、その人と仲良くなることができました。その人の本当の気持ちや考えが分かったから、自分の中の差別する気持ちがなくなったのだと思います。だから、本当のことを知らないのに苦手や嫌い決めつけたりせず、話したことがない人とは、どんどん話して仲良くなったり、本当の気持ちを知ろうとしたりすることが大切だと思いました。

この経験から、僕は、普段の生活の中で差別を減らす、なくすために、まず相手の気持ちを考えることを大切にしたいです。相手は今どんな気持ちなのか、どう思っているのかなど、本当の気持ちを知ることができれば、自分の中の差別する心は少しずつ減っていくと思います。また、相手のことを考えた言葉遣いや、こんな言葉をかければ相手を元気づけられるということも少しでも意識して行動すれば、身の周りの差別というものも減ると思います。

これからの人生で、色々な人と関わったり、様々な経験をしたりすると思いますが、まず相手と話して、お互いのことを知るようにしたいです。そうすれば、これまでの自分のように、勝手に決めつけず、相手と仲良くなっていけると思うからです。

今回の人権学習で学んだ、「知らないことが差別の始まり」という言葉を大切に、「正しいことを知る」ことから始めていきたいです。そして、身の周りから、差別、いじめをなくしていきたいです。

